

2008年9月28日・松本東急イン

日本福祉大学セミナー・松本オフィス開所式・作品展が開催されました

9月28日、松本駅前東急インを会場に、日本福祉大学セミナー・松本オフィス開所式・障害者施設の作品展が開かれました。

セミナーでは日本福祉大学社会福祉学部の原田正樹准教授が「地域福祉の動向とその推進に向けて」と題して講演。地域福祉は児童、障害など分野別の福祉を包含する総合的な社会福祉活動であり、これからの福祉を考える上でたいへん重要な課題になっていることを強調。とくに、介護などの活動の場である在宅あるいは施設での直接的な福祉サービスを支えるケアマネージャーなどの



福祉の専門職を良質ともに豊かに育てること、またその活動条件や環境を広く形成してゆくことなど広い視野で地域福祉を追求することがいまたいへん大切になっていることが強調され、長野県における優れた伝統や蓄積をさらに広めようと、講演をしめくられました。

大学セミナーには事前に申し込みをいただいた方をはじめ、130名を超える方たちが参加され、長野県で開かれた大学セミナーとしては過去最大規模となりました。



この後、大学父母後援会が開かれ、足立副学長、田辺キャリア開発課長から大学の近況と就職・進路状況について説明が行われ、さらに各学部ごとに教務関係職員との個別相談が行われました。

父母懇談会と併行して別会場では日本福祉大学北信越地域ブロックセンターの開所式が行われました。



式には来賓として提携自治体である宮田村から清水村長、新井教育長、辰野町からは町長代理として宮原まちづくり政策課長補佐の各氏が参加されたほか、県内福祉団体の代表の方たちが参加されました。また式には松本市教育長伊藤光氏はじめ、祝電、メッセージが寄せられました。

大学からは、渡辺理事長代行、黒川事業担当常務理事が出席し、それぞれ挨拶があり、塩見事業開発課長から経過報告があり、大学としては、セ



ンター開設を機に、阿智村、宮田村、辰野町の3自治体との連携をはじめ、大学と地域の共同・連携を一層広め、地域づくりに貢献することと併せて、専門職養成、現職研修など幅広い活動を展開してゆきたいと抱負が語られました。

また講演会、開所式の会場前ホールでは、県内の障害者施設で取り組まれている表現活動の絵画や書、織物などの作品と一部自主製作品が展示され、参加者の注目を集めました。

作品展示施設

- *小布施町／くりのみ園／絵画・書
(知的障害者通所授産施設)
- *安曇野市／ふきぼこの家／織物、カレンダー
(身体障害者授産施設)
- *松本市／岡田希望の家／絵画・織物・藍染
(障害者共同作業訓練施設)
- *松本市／就労支援センターホープ／絵葉書
(NPO 法人)

*このほか、四賀アイ・アイのオリジナル絵葉書、阿智村老人クラブ生きがい講座作品(リース)、西駒郷(陶器)など、50点あまりの作品が展示されました。



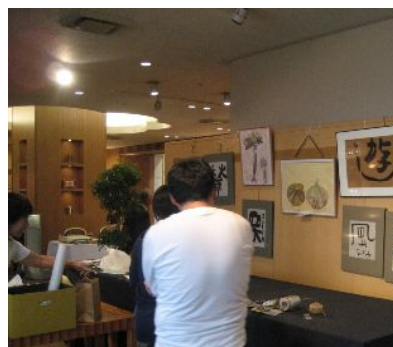
衝立の右はくりのみ園、左は岡田希望の家の利用者作品です。くりのみ園の「書」はどれもみな力強く、書き手の思いがこめられた作品でしたし、岡田希望の家の絵画作品の対象に対する観察力、色彩表現力には目を見張るものがありました。また全体として、作品からは温かさが感じられ、見るものの心をなごませるものでした。

またホテル側のご配慮で、飾り棚を作品コーナーとし、箸袋、織物、陶皿などの製品が展示されました。



→
飾り棚の作品

下の写真は、四賀アイ・アイのすてきな絵葉書。中央の写真は松本駅前、画廊アートフレンドの土田善敬さんの写真。右はふきぼこのカレンダー。



←
くりのみ園の書作品
←
ホープの絵葉がきも販売。

下の左側は四賀アイ・アイの絵葉書と中央はアート展の出品作品。右はふきぼこの家の「さおり織」。



また会場には、地元の写真家の村田幸英さん、細田盛弘さんの信州の風景写真が展示されました。大学の地域連携に共感され、今回の作品展協力されたものです。エレベーターホールと講演会場に飾られました。



(松本オフィス・津田道明)